





様々な種族が
友好的に暮らす
シルフィウム王国の
北の辺境伯領

皆様
今回は貴重な
時間を割いて
いただいて
有難う
ございます

できる限り
国王に
伝えさせて
いただきます

フラテルニテ
シルフィウム王国
第一王女



いえいえ殿下
こちらこそ
本当に感謝して
おります

我々のような
獣人族でも
分け隔てなく
接して
くださるなんて

王国中を回って
国民の声を
聴く旅を
してらっしゃる
のよね

国境周辺は
危険では？

な
あに
我々騎士団が
王女殿下を
お守りして
おります

何
が
襲
つ
て
き
て
も
返
り
討
ち
に
し
て
見
せ
ま
す
よ
!

さ
ら
な
る
幸
せ
な
国
を
作
る
の
が
騎
士
の
義
務

士
気
も
十
分
で
あ
り
ま
す
!

ミヤコ

東方からの
流浪騎士

アリア

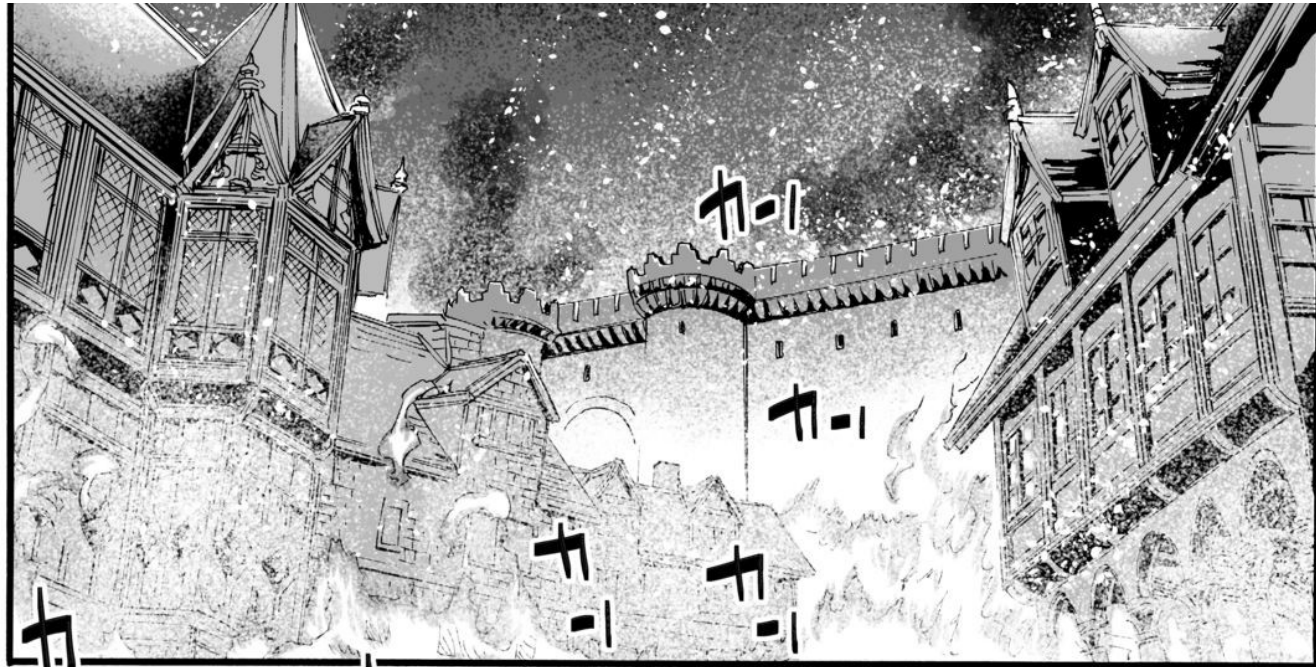
シルフィウム騎士団
団長

彼
女
ら
が
居
れ
ば
危
険
な
ど
恐
れ
る
に
足
ら
ず
で
す
よ

あ
ら
あ
ら
頼
も
し
ね
い
で
す

王
国
は
千
年
安
泰
だ





なんの
騒ぎだ!?

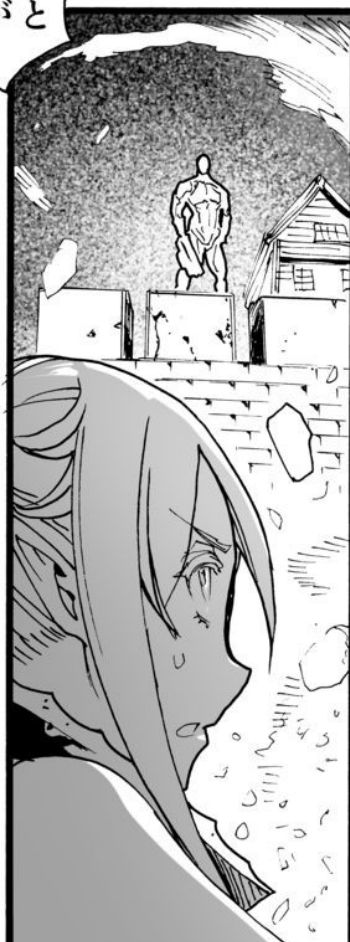
団長!
襲撃
です!

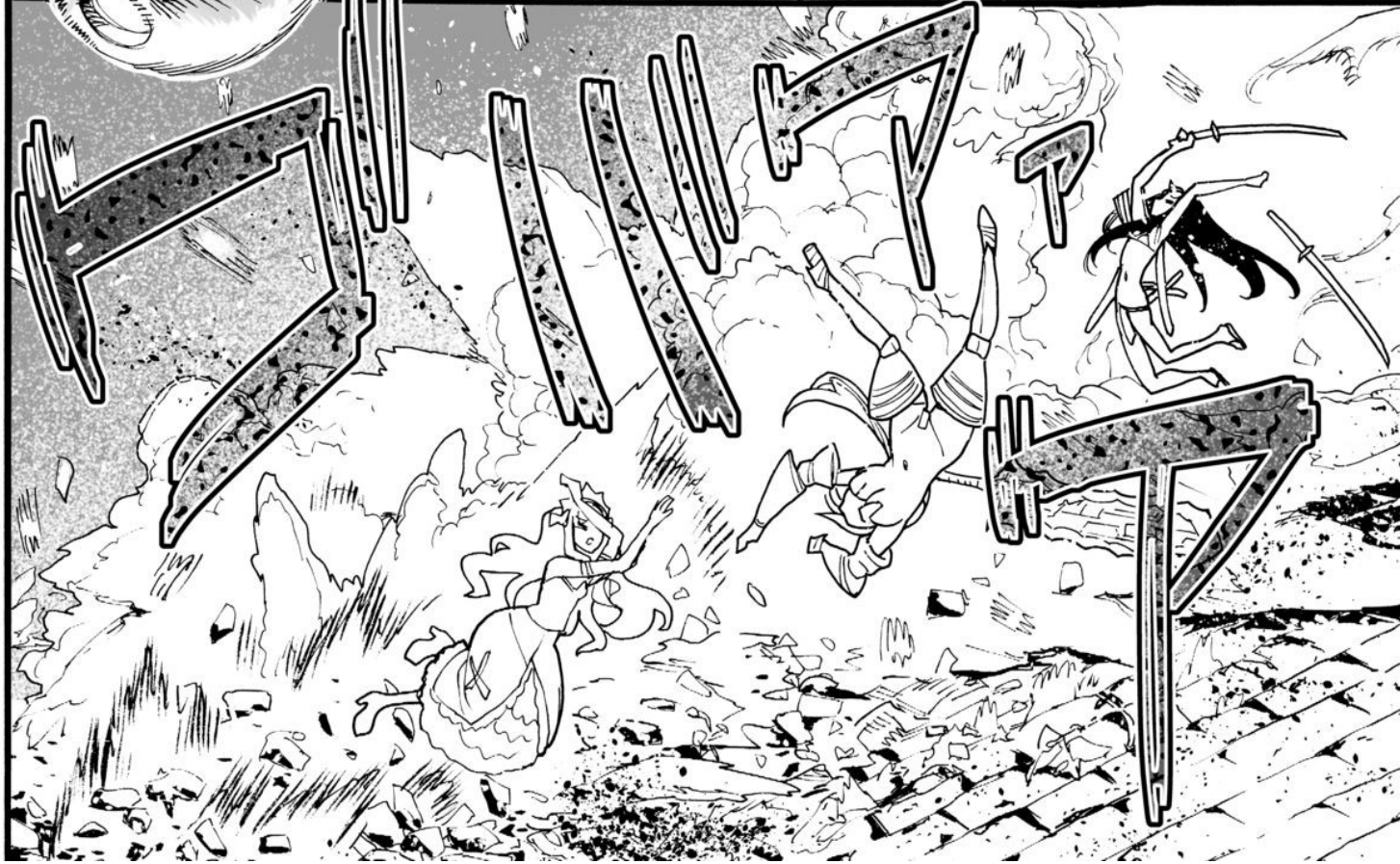
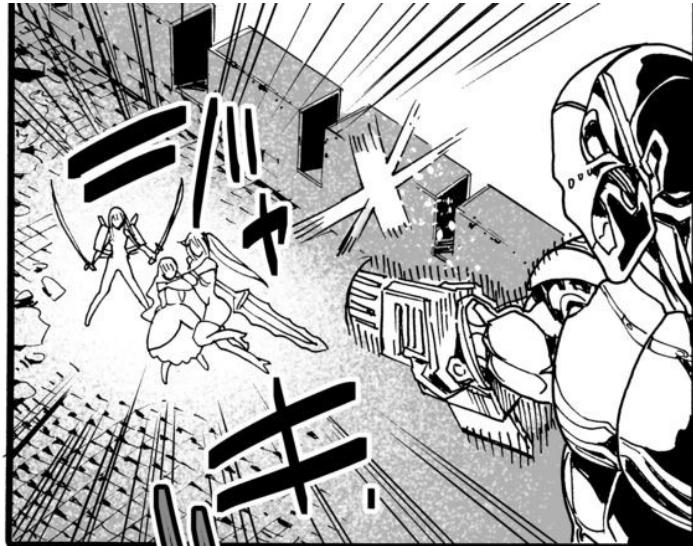
馬鹿な!
辺境伯領の
砦は鉄壁
だぞ!

何故街が
燃えて
いる!

見たことも
ない武器
……

すごい音と
炎で建物が
吹き飛んで







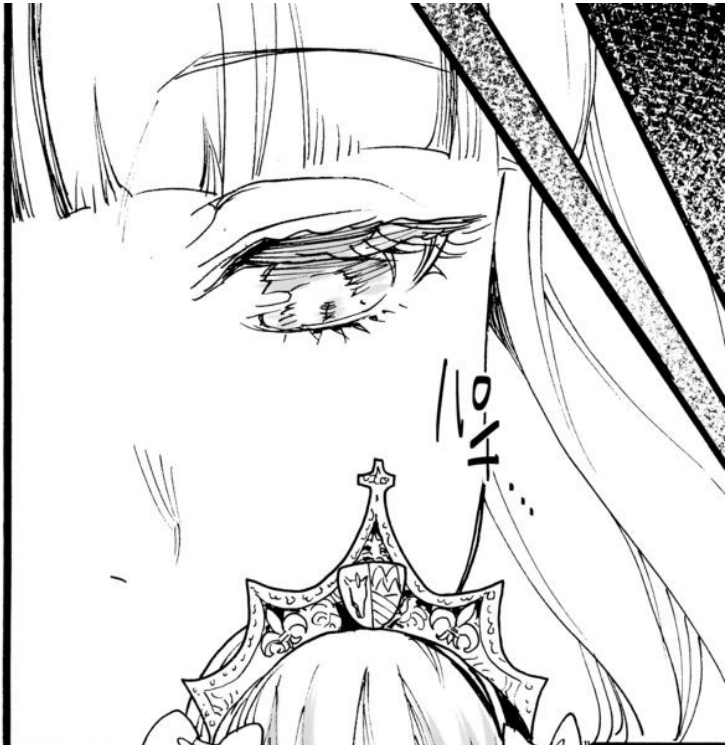
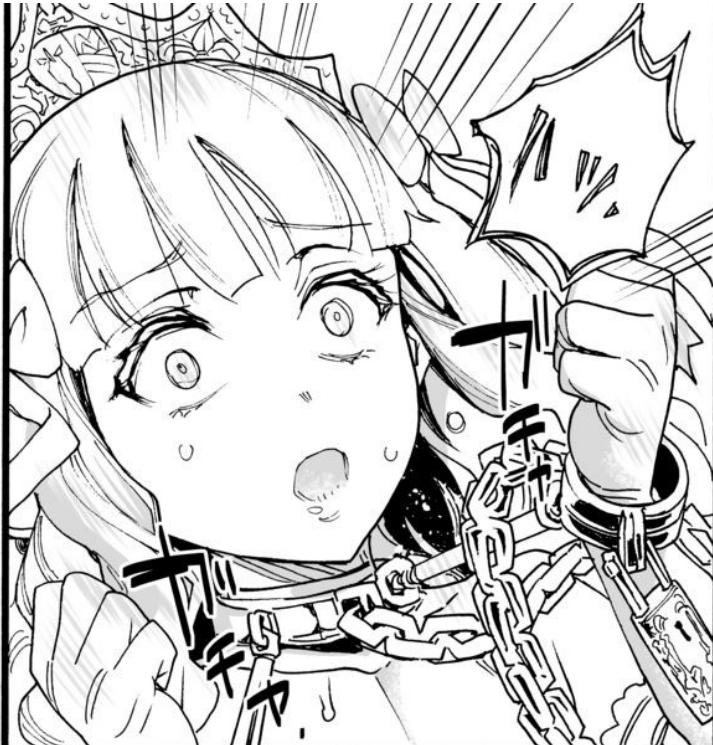
街のほうは
制圧間近だ
王国など
我々の
相手ではないな

こっちは
王女を
見つけた

ふだんに
未だにも
火薬も
知らない
猿どもが

こんな
原始的な
安全に暮らせる
つもりだった
のか

王女と
騎士団を
回収しろ



殿下……
申し訳
ありません
……

私が
いないが
ら
……!!

アリア……
あなたも!?

うっ……!
これは……!



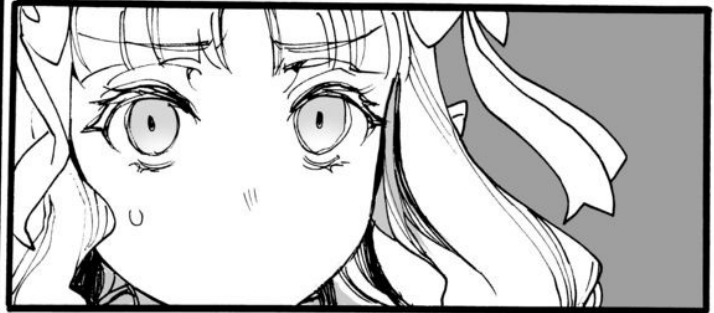


目覚めたか



あなた達は
ゴレム
ですね……

おや
ご存じ
だったか



数百年前

我々は
機械と人間を
融合させる
研究をし

王国から
追放された……

くくく
しかしそれが僥倖
我々は倫理など
無視して
色々な研究を
迅速に進める
ことができた

おかげで
機械や医術……
お前たちより
ずっと進んだ
錬金術を
手にしたんだよ

そろそろ
王国に
『恩返し』を
したくてな

美しき王女様にも
『幸せ』になって
頂こうと
思っているんだよ

もう
元の生活に
戻れないな……



最新の
媚薬だの

空高く
ぶっ飛ぶ
やつさ





体が熱い……!!
目がぐるぐる……!!

頭が……
真っ白に……

ふわふわして……
飛んじゃう……っ!!

肌が……
ビリビリして……



ズ
ズ

あはあ
ああ……
♡

なんで私
漏らして……
!?

肌に刺激を
与えただけで
いきなり
絶頂失禁か

しばらく自由
動けないはずだ
首枷を
外してやれ

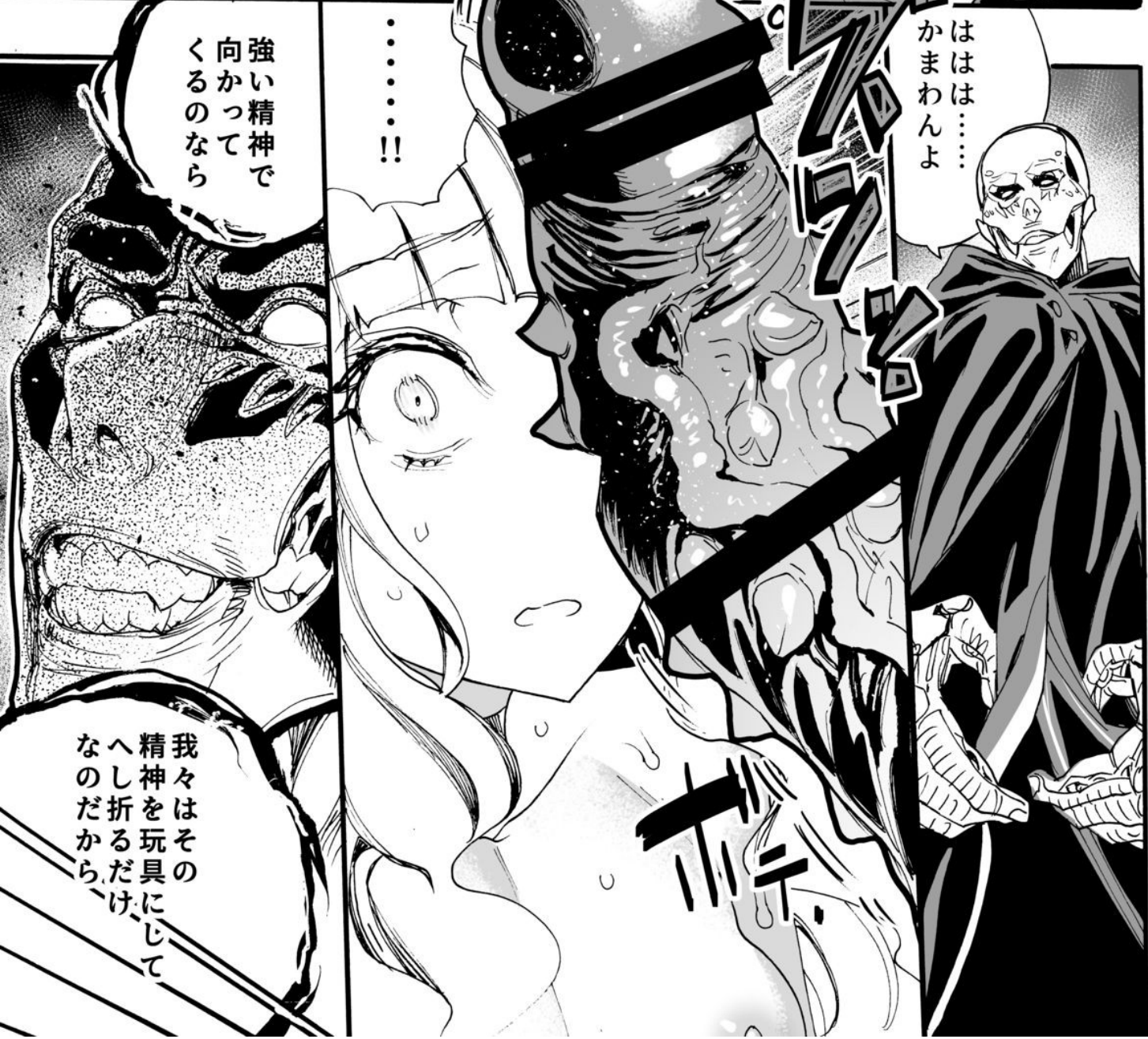


どんなに
辱めようと
しても無駄
です……!!

こんな……
薬などで
王女や騎士の誇りを
傷つけることは
できません……!!

うう……
卑劣な……

ん？

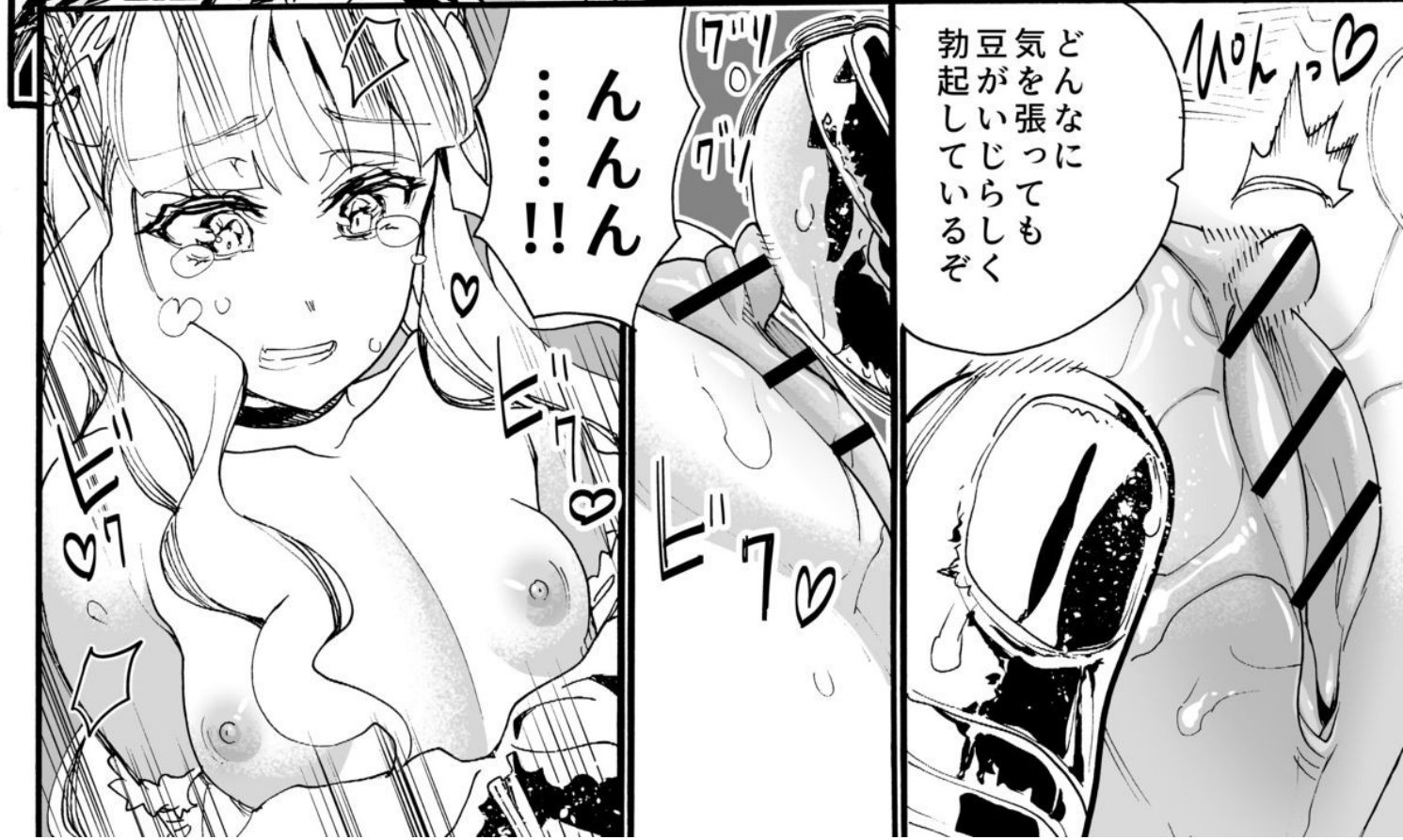


強い精神で
向かって
くるのなら

……!!

ははは……
かまわんよ

我々はその
精神を玩具にして
へし折るだけ
なのだから





あ

まだまだ
どんどん
注射して
いくぞ

あや……
……っ

やりすぎで
殺すなよ?

どちらにせよ
ぶっ壊れて
もう人間に
戻れなくな
るんだ

死んだら
まあそれ
までだ

おっ……
おあっ……
……!!

あんなに
誇りがどう
言っておい

もう知性
がふっとな
顔をしてい

70 = 1/2

ぐおっ……
ぐうっ……
ぐおっ……
ぐおっ!!

殴られるたびに
イッてるぜ
この薬は
痛みすらも
快感に変えるんだ

女騎士も
もう
グダグダだ

アハハハ♡

歯ア
食いしばれよ

よし
今日一番
気持ちいい
こと
してやるぜ

ハアアア
……!!

薬と酒と
精液の
混ぜ物だ

ほら
どんどん
飲みな



オラア!

カハッ
!!

ほう
盛大に
失禁したな

さすがの
女騎士も
この一発は
耐えられんか

ブニッ
アアッ
アアッ



ふん
所詮この程度の
雌犬だった
ということ……



……
と思ったが
随分恍惚と
しているな

痛ければ
痛いほど
快樂も高まる

私……
苦しいのに……
いつちやう……

どうして……



今夜は
このくらいに
しておくか

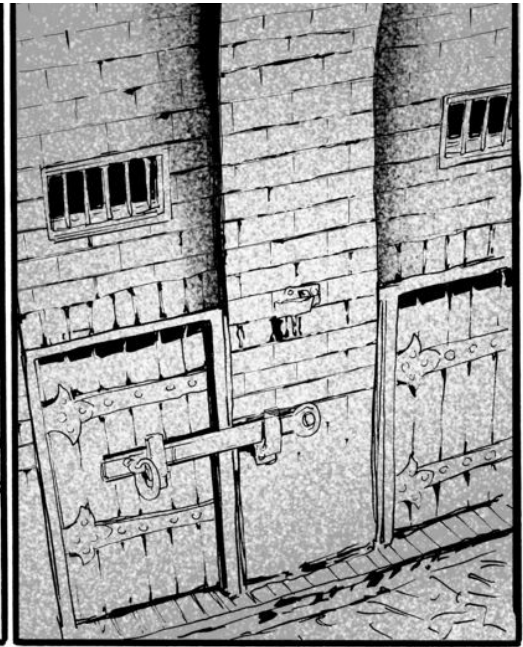
楽し
み
終
わ
っ
た
ら
牢
に
入
れ
て
お
け

ベィン



薬が
切れた時に
う
また楽しもう

宜しくな
王女殿下





二人に薬の
仕込んだ効果
30倍の原液を
持つ……

常人では
皮膚につける
だけでも
危険だが
濃度だ

それ故に
快感は
お墨付きだ



これが
欲しくないか？

おねだり
出来たら
……

一人にだけ
打ち込んで
やる

もう
一人は
数日間
薬抜きだ



くすり
くすり
……



遅れたら
もらえない

気持ちいい
くすり

ほしい
ほしい
ほしい



ほしい
ほしい
でも……

私は
女王……

自分から……
こんなこと……
許されない……



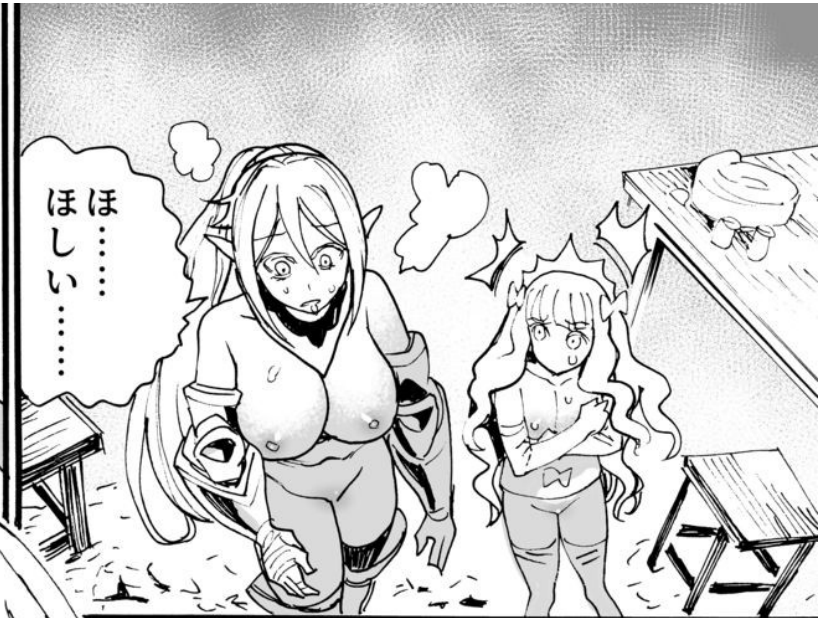
でも……
でも……
もしも……

『アリアが
先におねだり
したら……？』



もう……
ガマン……
できない……

ダメ……



ほほ……
ほしい……



ダメです
王女……!!

こんなもの……
王女には!!

これはわたしが
もらうんです
……っ!!
きもちいいの
……
クスリがないと
……
わたしはっ……!!

うるさいっ
……!!
あなただって
クスリが
欲しいだけの
くせにっ……!!

クスリ
……!!

わわっ
ちやうだい!

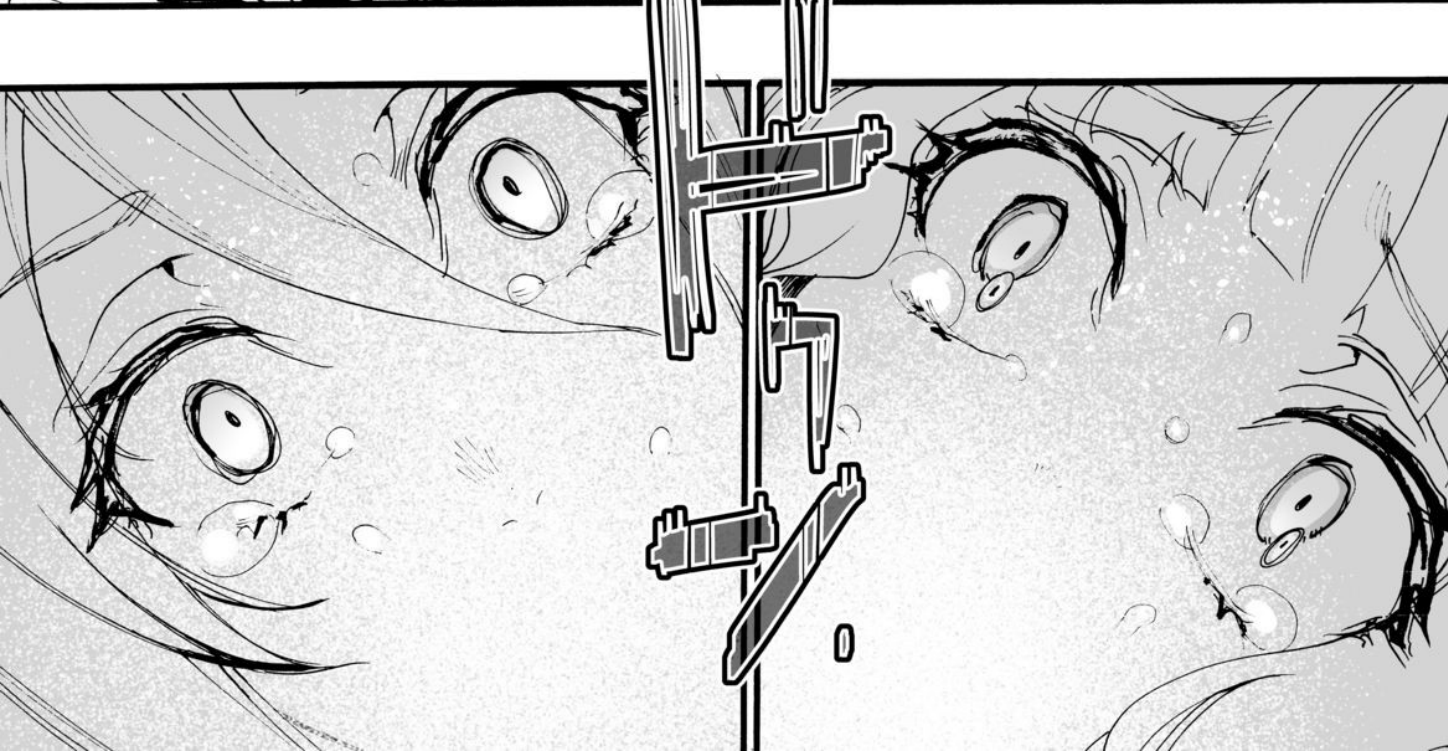
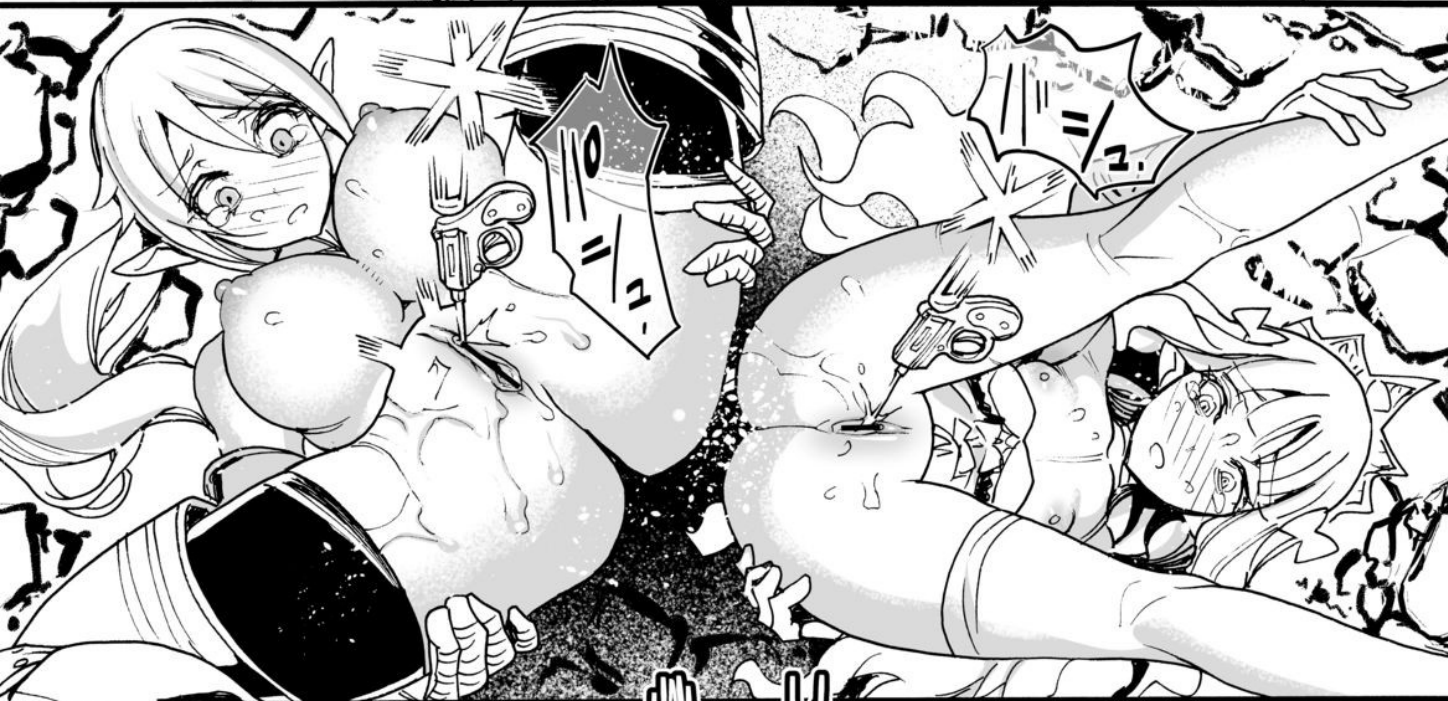
何でも
……!!
するから



くくく
汚い争い
だな

いよいよ
本性も
引きずり
出せた

調教の
成果だ





んあああ
あああ♡

んぐうつ……
あつ……♡



まあ良い
自由に
使わせてもらおう

もう意識が
飛んで
しまったな

頭の中……
虹色の光……

世界……回る……
息……できな……









メキッ

ッ
♥

メキッ

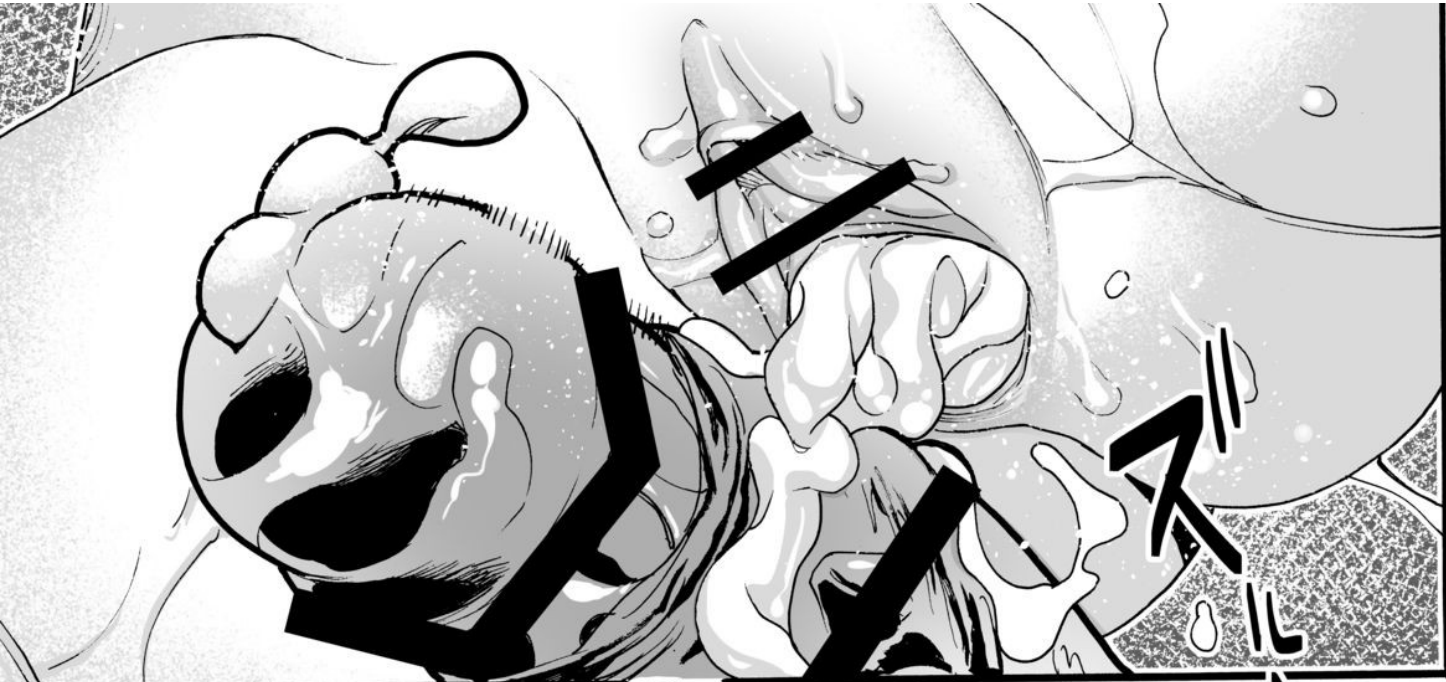
メキッ

メキッ

♥

メキッ
メキッ
メキッ
♥

♥

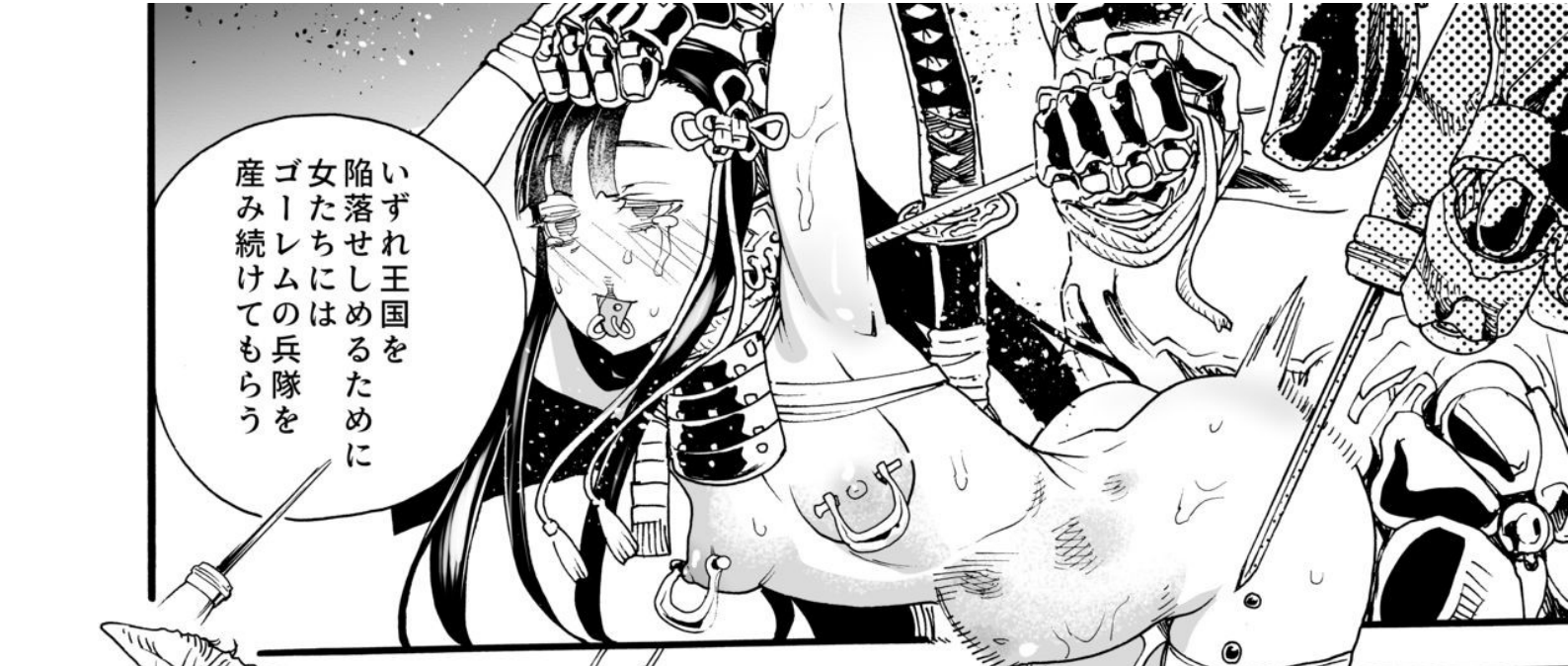




おっら
もつと
腰振れ

雌豚
みたい
に
鳴く
んだ
よ！

あ
ー
ッ
ッ
ッ



いづれ王国を
陥落せしめるために
女たちには
ゴレムの兵隊を
産み続けてもらう



お前たちは
自分たちの
快楽のために



祖国を
滅ぼす
手助けを
するんだ

皮肉な
ことな
……な